

エゾスズラン

Epipactis papillosa Franch. et Sav.

ラン科

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

石川県において稀産の種である。(現況:RO)

形態

茎は単一で直立、葉は卵形で互生、しわ状の脈がある。日本列島には、カキラン属植物としては、本種とカキランの2種を産する。カキランは湿地に生え、高さ30~70cmに達し全草無毛であるが、本種は林床に生育、高さ30~60cmでやや低い。全草に短毛を密生、花被の長さは9~12mm、側花弁は鋭頭、唇弁の側裂片はカキランのように耳状に突き出ることはない。

国内分布

北海道~九州、南千島、カムチャッカ、樺太、ウスリー、中国東北部。

県内分布

白山高地区。

生態など

7~8月、20~30花よりなる緑色の総状花序をつける。

生育環境

高地の林床に生育。

危険要因

森林伐採。

特記事項

最近、県内での分布が確認された。



林 二良・2005年7月27日・白山麓

分布図はありません。